



岡本 榮三郎

能勢町の「まちづくり」について

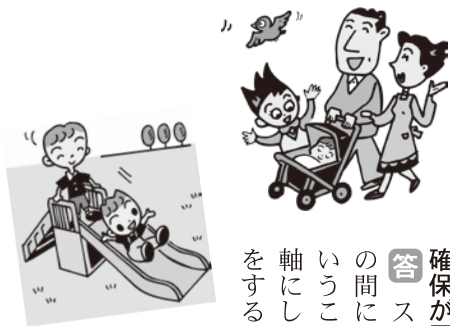
一、能勢町の「まちづくり」について
二、「コンパクトシティ」について
三、「地域維持型契約方式」の活用について

「コンパクトシティ」について

「地域維持型契約方式」の活用について

問 能勢町のまちづくりについて、私は三年前に廃止が決まっていた青少年野外活動センターを府より譲ってもらい、総合公園にとの質問をしたが、現実のものとなった今日、一庫公園のような公園は出来ないものか。

答 学校再編や火葬場の建設等優先すべきものがあるため、将来的には能勢をアピールできる施設となるよう検討したい。



問 今後急激に進む高齢化社会の中で、自分で運転をすることが出来なくなったり、一人生活の高齢者が増える中、自動車に頼らずコンパクト（歩いて暮らせる）まちづくりのため、良好な市街地形成と併せて「公共の交通網の充実」が不可欠だ。平成27年開校の新学校のスクールバスの運行に伴い、このバスの内何台かを昼間に利用して、交通弱者のための生活交通の確保が図られないか。

答 スクールバスを昼間の間に交通弱者に使うということも過疎地有償を軸にして、その中で検討をするべきと思っている。

第2次能勢町廃棄物（ごみ）減量計画について



谷 義樹

一、「第2次能勢町廃棄物（ごみ）減量計画」について
二、農業振興調査研究事業について

問 取り組みの現状は？

答 平成11年度比50%減の目標に対し、平成22年度約44.5%の減量を達成。

問 第2次計画の特徴は？

答 今回の減量は、人口減による減少もあった。今後は、1人当たりのごみ減量をポイントに置く。

問 減量計画の具体策は？

答 台所ごみの減量を重点に、生ごみの水切りや堆肥化、リサイクル、集団回収の支援に取り組む。

問 生ごみ堆肥化機械補助事業の、評価は？

答 今までに千台強の補助を行い、現在200台近くが、使われている。取り組んでいる方から、助成制度の継続や、堆肥の活用先を求める声が出ている。

問 堆肥の活用先について

で、町は具体策がないといっているが、農業者と連携すれば良い。それよりも生ゴミ処理については、事前の水切り処理が大変だ。水切り機の提供が出来ないか？

答 提供出来るよう現在検討している。

問 行政関係者が自ら率先し、生ごみ堆肥化に取り組むことが大事と思うが？

答 自ら実践せよという指摘だが、関連施設で実施し、検討していきたい。

問 町の、その関連施設等で、「生ごみゼロ」の取り組みをしてはどうか？

答 「生ごみゼロ運動」とか、「ごみの減量化を図ろう」等の、啓発を検討して行きたい。

問 農業振興調査研究事業について

答 取り組みの現状は？
23年度に神戸大学と

の共同研究で、農用地の利用集積化と農業基盤を強化するため、農業公社の設立、能勢物産センターの機能強化と既存の組織の活用、中核農家の支援等の検討を行った。

問 今後の具体スケジュールは？

答 農地利用集積円滑化事業の実施に向けた関係団体との調整を進め、農業公社的な組織の調査研究と具体化を図る。

問 農業問題については、農業を推進していくための組織づくりという、実践的な課題を掲げている。この事業に対する、町長の思いは？

答 民間や種々の団体等、意欲のある方に地域農業を盛り上げていただくのが理想だが、取りあえず法人組織を立ち上げるため、一定のところまでは、私が主導を持ってやって行く決意でいる。